

しらかし

新潟市立豊栄図書館・松浜図書館報

No.63 2018年1月

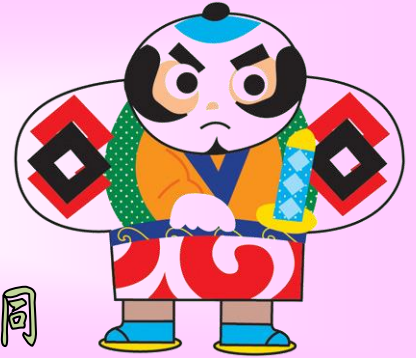
「しらかし」は豊栄図書館正面にあるシンボルツリーの樹種です。

謹賀新年



本年もよろしくお祈りします。

豊栄図書館・松浜図書館職員一同



蔵書点検による休館について

北区の図書館では、下記の期間、蔵書点検のため休館させていただきます。
これに伴い3週間貸出となります。

	休館日	3週間貸出
豊栄図書館	1月24日(水)～1月31日(水)	1月10日(水)～1月23日(火)
松浜図書館	2月7日(水)～2月14日(水)	1月24日(水)～2月6日(火)

※ 図書・雑誌はいつでも返却ポストに返すことができますが、AV（視聴覚）資料（CDやDVD等）と相互貸借資料の返却はできませんのでご注意ください。

※ 電話・メールによる予約、貸出期間の延長、調査相談等はお受けできません。
開館している図書館をご利用ください。

蔵書点検って？

図書館資料の目録（電算データ）と実際の図書館資料が一致しているか、1点1点確認します。

図書を探す時や貸出するときにご迷惑をおかけしないための点検作業です。

今回のコンテンツ

- お知らせ（蔵書点検に伴う休館） — 1
- 古い雑誌をお分けします — 2
- 映画作品の撮影がありました — 2
- 小さな朗読会を開催しました — 3
- わたしの1冊 — 3
- 斎藤惇夫氏講演会を開催しました — 4



古い雑誌をお分けします！



豊栄図書館

- ◆場所 豊栄図書館 1階 円形廊下
- ◆日時 平成30年2月21日(水)から2月28日(水)の開館時間中
- ◆配布雑誌 主に平成27年の雑誌のうち、保存年限の過ぎたもの
- ◆注意その他 冊数制限なし(なくなり次第終了)
どの雑誌を配布するかはお答えできません。

松浜図書館

- ◆場所 北地区公民館 2階 講座室
- ◆日時 平成30年2月8日(木) 午前11時～午後3時
- ◆配布雑誌 平成27年の雑誌とその付録、児童雑誌は平成24年分
- ◆配布方法 対象雑誌及び付録を一齐に配布、冊数制限なし(付録はお一人1点まで)
- ◆注意その他 ◎松浜図書館は蔵書点検のため休館中です。
◎残った雑誌は下記の期間に図書館前で配布します。
2月9日(金)～2月11日(日)(午前10時～午後5時に配布。なくなり次第終了。)

NEWS

豊栄図書館

映画作品の撮影がありました



先日、国際映像メディア専門学校映画プロデュース科の学生が、豊栄図書館を舞台に映画作品の撮影を行いました。学校の課題制作とのことでしたが、撮影クルーが揃い、シーンごとの衣装替えがあったりと、現場の雰囲気は本格的な映画撮影そのものでした。

映画館で上映されるような作品を目指してがんばってください。今後のご活躍を期待しています。

松浜図書館

「小さな朗読会」を開催しました

文化の日、北地区公民館文化祭にて「小さな朗読会」を開催しました。親しみやすいエッセイと詩を図書館職員が朗読。作品のあたたかなユーモアをご来場の皆さまとともに楽しんだ素敵な時間となりました。



朗読会プログラム

エッセイ「寸劇」	向田邦子 作
「わんこそば」	黒柳徹子 作
詩「貯金」	柴田トヨ 作



一般

『ナショナルジオが行って見た究極の洞窟』



ナショナル ジオグラフィック/編
日経ナショナル ジオグラフィック社

YA

『高校図書館デイズ 生徒と司書の本をめぐる語らい』

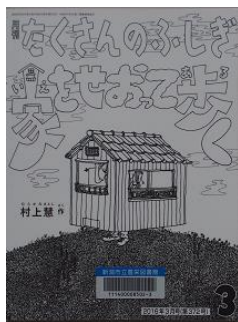
成田 康子/著
筑摩書房

本をめぐる記憶は個人的なもので、それを誰かと共有することは少ないのではないのでしょうか。大人の一手手前の高校生であればなおさらのことです。しかし、本書に登場する高校生は、司書である著者に本にまつわること、そして本を通して自分のことを饒舌に語っています。その記憶をもとに、それぞれの生徒の本にまつわる物語を一人称で語らせたものが13編収められています。13人の読書体験はそれぞれに豊かで、読みごたえがあります。(田辺)

この表紙、ヒトが小さくなった？CGの合成写真？いえいえ、洞窟の中の巨大な結晶群を調査隊が探索している様子です。長さ4km以上もある洞窟、地上から1.3kmも降りる洞窟。轟々と音を立てて流れる地下水脈あり、どこまでも澄み渡る静謐な地底湖もあります。最後まで「地球上にはこんな場所があるのか！」と驚きの連続です。写真にはヒトが小さく写りこみ、地形のスケールの大きさが迫ってきます。それにしても、ヒトの飽くなき好奇心と行動力にも脱帽です。(関)

児童

『家をせおって歩く』 月刊「たくさんのふしぎ」2016年3月号



村上 慧/作
福音館書店

絵本

『へろへろおじさん』



佐々木 マキ/さく
福音館書店

これは、発泡スチロールで家を作り、背負って移動しながら生活した作者の記録です。家の大きさやしくみ、暮らし方など謎だらけの生活をイラストと写真で垣間見ることができます。「この生活で何より楽しいのは、知らない町に滞在して、普段は知り合えない人たちに出会えることです」という作者。新潟県内も北から南へ移動し、あとがきによれば、2年目の冬には新潟市内の民家に家を預けています。どんな出会いがあったのでしょうか。(小田)

友達宛ての手紙を書き終えて、あとはポストに投函するだけ、のはずだったのに…主人公の「おじさん」が部屋の外に出るなり襲いかかる災難の数々。ポストにたどりついたときには、服はよれよれ、手紙はしわくちゃになってしまいます。おじさんの1日はこのまま後味悪く終わってしまうのでしょうか？それとも…？
結末はどうぞ本を開いてみて下さい。大人が読んでも、人生について考えさせられる絵本です。(島倉)

齋藤惇夫氏講演会を開催しました

『河童のユウタの冒険』 齋藤 惇夫／作
金井田 英津子／画 福音館書店

河童のユウタは



たしかに福島潟に生きている

「福島潟を背景にした講演は素晴らしかったです。キラキラと太陽の光が差し込み、ここかしこに動物たちがちらついた気がしました。大空を飛来していく鳥たち、また本を読みたくになりました。絵の素晴らしさが拡大され愛を感じました。」
アンケートより



長編ファンタジー『河童のユウタの冒険』（齋藤 惇夫／作 金井田 英津子／画 福音館書店）のまさに舞台である福島潟。物語の主人公はこの湖に棲む河童のユウタです。

昨年11月12日、「水の駅ビュー福島潟」を会場に齋藤惇夫氏講演会を開催し、多くの方にご来場いただきました。

齋藤先生は長年福島潟を訪ねては、バードウォッチングや潟の自然を楽しんでこられました。講演会では、作品の源となった福島潟での体験や、水辺や生き物たちに寄せる思い、愛読してきた児童文学についてお話いただきました。

「潟で鳥たちが飛び立つのを見るだけで『新潟の子どもたちは、身近にこんなに豊かな自然があって幸せだな』と感じてきました」「冬の福島潟は鳥たちで大混雑です。混み合った水面へすごい勢いで着水するのに全然ぶつからない。『これは、何かが水の中にいる！』という感じがしました。それが福島潟を何度も訪れるうちに河童に結びついてきたのです」。

齋藤先生の背中越しには福島潟が広がり、空には白鳥の姿も見えました。作品世界を目の当たりにする素敵な体験をしていただけたのではないかと思います。また、挿画を担当された画家の金井田英津子さんも特別参加され、挿し絵についてのお話も伺うことができました。

講演会終了後には「水の駅ビュー福島潟」自然観察員のガイドで福島潟を散策しました。こちらも多くの方がご参加くださり、著者と交流しながら福島潟の自然を楽しんでいらっしゃいました。



福島潟散策

編集・発行 : 新潟市立豊栄図書館

〒950-3323 新潟市北区東栄町 1-1-35 TEL:025-387-1123 FAX:025-384-6600

新潟市立松浜図書館

〒950-3126 新潟市北区松浜 1-7-1 TEL:025-387-1771 FAX:025-259-7331

発行日 : 2018年1月

ホームページ : <http://www.niigatacitylib.jp/>